

2025.9.25

大阪女学院中学校・高等学校 2024 年度学校関係者評価

学校関係者評価委員会

日時： 2025 年 9 月 25 日(木) 午後 3 時 30 分～4 時 50 分

場所： 大阪女学院中学校・高等学校 北校舎 応接 B

学校関係者評価委員

へール会（PTA）会長：大山 明

へール会（PTA）副会長：塚本美佳

へール会（PTA）副会長：中西陽子

同窓会会長：稲葉恵子

同窓会副会長：竹内 綾

学識経験者：有澤慎一（日本基督教団池田五月山教会牧師）

陪席

校長：山崎哲嗣

副校長：関口 淳

高等学校教頭：谷本 力

中学校教頭：平松秀元

議事進行

1 議長選出

合議により有澤慎一氏を議長に選出

2 議事

冒頭、副校長より、「大阪女学院中学校・高等学校 2024 年度自己評価」にある概況の「2024 年度を振り返って」に記載の自己評価、並びに「2024 年度事業評価・課題と改善点」について、重点的に評価・講評をいただきたい旨の説明があった

議事記録

自己評価【概況】について

(1) 年度を振り返って

A ミッションの再確認と方法

大阪女学院のミッション（使命）については、再確認がなされ、どのように現代社会・地域へどのように文脈化し共有するかについては、概ね評価されている。

B 社会・環境変化への対応

変化する社会的要因・環境への対応として、少子化、加速するグローバル化対応、ダイバーシティ対応、危機管理の重要度について真摯に取り上げ、さらに取り組みを強めるようにという評価であった。

C 2024 年度の推移

- ① 2025 年度より、専任・常勤教職員が週 5 日間勤務に移行できるフレーム作りが 2024 年度中に達成されたと評価する。
- ② ミッションステートメントおよび新学習指導要領に基づくカリキュラム・シラバスの再構築については、生徒の 5 日制カリキュラムを適切に作成し、2025 年度実施に向けた準備ができていた。
- ③ 生徒の主体性を伸長するための放課後学習支援のプログラム改定及び個別最適化したプログラムの準備については、土曜プログラムの構築について評価した。土曜プログラムについては、以下の意見が付された。
 - ・内容についての事前説明が大変だったと思うが、十分であったかどうかを再検討すべきである。
 - ・語学系の受講希望が多くあったのに、開講の準備ができなかったのは残念、翌年度の準備に向けて、改善が望まれる。
 - ・受講を希望したが開講されなかった講座を希望した生徒について、追加募集に適宜応募するなどの促しが必要であった。

(2) 生徒募集概況と動向

2025 年度入学者数を、2024 年 5 月 1 日の在籍者数と比較したときの増減を精査し、募集状況は概ね良好であったと判断した。また、募集状況の動向については、以下の意見が付された。

- ・受験相談にやってくる保護者に、本校卒業生が増えていると聞いたことについて、卒業生の子女の受験者にしめる割合を分析する方が良いと考える。
- ・受験動向と大阪府の就学支援金の関連について、さらに詳しい分析をした方が良い。

- ・国の就学支援制度の今後の推移に順応した募集対策をとるべきである。
- ・中学入試において、志願者を増やす施策を再構築すべきである。
- ・学校のステークホルダーと積極的に繋がり、彼らの関与を募集活動に応用すべきである。

自己評価【2024 年度事業計画の自己評価・課題の改善点】について

A 財政と基本的な資源

内部調査報告に基づき、以下の項目をどのように評価するかについて意見を交換した。

空調

多くの高校生が空調について問題視していることがわかる。空調の下にファンをつけて空気を回るようにするなど、検討する必要がある。

本件は、昨年度の学校関係者評価でも指摘のあったところなので、早急に対策する必要がある。昨年は、教室の席によって温度差があることが問題視され、サーキュレーターなどの設置を求めたところ、すでにサーキュレーターは設置されているということであったので、その他の方策を講じるべきとしていた。

トイレ

一部施設に問題があり、トイレを使えない生徒がいたとの報告を受け、早期に完全するよう学校関係者からの評価があったが、2024 年の夏に、南校舎 3 階～5 階のすべてのトイレが改修され、これで中学校・高等学校で、すべての生徒が改善された設備のトイレを利用できる環境になった。

B 組織内要因生徒支援

AI を利用できる環境において、いかに学問的誠実性を担保するかという課題が解決されていない。

→（陪席者から）生徒が提出した成果物について、口頭試問を行うと誠実性が担保できると考えるが、人的・時間的資源が十分でなく、必要程度の口頭試問を実施できる状態ではないと反省している。

小学生が AI に悩みを相談する時代になっている中、本を読む指導が大切である。その他、この環境の中で、どのように学習環境を整えるかを考案してほしい。

→（陪席者から）ステークホルダーの目線で教員が研修できる機会を設けた。ウィルミナ会

C 組織内要因スタッフ支援

2024 年度までは学校が土曜日も含めて 6 日制で運用されていたため、教員は日曜日を休日とし、加えて週日の 1 日を研修日として個別に曜日設定して、週休としては 2 日を取れるようにしていた。

しかし、この制度では、教員の誰かが特定の曜日に不在となるため、緊急事態が起きたときなど、必要な対応が翌日以降になったりなどの、制度上の歪みが指摘されていた。

これを受けて、2024 年度中に、翌年 2025 年度から、学校を週 5 日制にし、土曜日については専任教員を全員休日として、外部人員による支援で土曜日の運営をすることとした。また、土曜日の、外部人員による活動は、大阪女学院サタデープロジェクトとして、体験型学習と探究活動を中心とした学びの選択肢を用意し、そこから生徒が選んで、自分の土曜日の学びを設計できる形を構築した。これにより、教員の効果的な働きが終日に期待される。

D 組織外への働き

保護者による地域貢献活動として、特に入試広報の部門を中心として、有益な活動を展開することができた。

E 総評

様々な教育上の問題が多角的に存在して、学校はその対応に日常的に追われる状況にある。それでも本校生徒・保護者の学校への帰属意識は高く、母校に対する誇りを、生徒・保護者ともに共有していることが調査で明らかになった。特に、学校満足度が今年度も 90 パーセントを超えていることは、学校存在意義において有用な意味を持つと評価できる。在籍生徒に占める「リピーター（姉妹、卒業生の子女）」の割合が、例年一定程度あるという状況がある。これを受け、今後も学校のブランディング向上に意識を向け、教育活動、広報活動に邁進して行っていただきたい。

大阪女学院中学校・高等学校 2024 年度自己評価

1. 【報告の形式と方法】

(1) 形式

2024年度事業計画書（16項目48要素）のフォーマットに準じて報告する。

(2) 参照と分析

報告にあたり、以下のデータ等を参照した。

- ①学院の収支決算報告書 ②大阪私立中学校・高等学校連合会の報告書 ③中学校・高等学校の各種報告データ
- ④2024年度内部評価・レビュー

(3) 報告

①2024年度の事業計画（16項目48要素）のうち、重点課題について評価と改善点を報告する。

2. 【概況】

(1) 2024年度を振り返って

A ミッションの再確認と方法

大阪女学院のミッション（使命）を再確認し、現代社会・地域へどのように文脈化するか。その共有。

B 社会・環境変化への対応

変化する社会的要因・環境への対応として、当座4つの課題を挙げて取り組んでいる。

- ①日本の少子化（2034年の13歳人口は2021年度比で30%減少への対応）
- ②グローバル化の加速（世界規模での経済変動、未来への投資を考えた教育の対応）
- ③ダイバーシティへの対応（多様な属性の生徒受け入れ。文化、価値観の多様性社会で生きるために）
- ④危機管理の重要度増加（災害、経済危機、政治危機のなかでも平安に生きるために）

C 2024年度の進捗

前年度より継続しフレームとプログラムの再構築の議論を重ねた。2024年度内の達成事業は以下。

- ① 2025年度より専任・常勤教職員の週5日間勤務のフレームを再構築
- ② ミッションステートメントおよび新学習指導要領に基づくカリキュラム・シラバスの再構築
- ③ 生徒の主体性を伸長するための放課後学習支援のプログラム改定、個別最適化したプログラムの準備

(2) 生徒募集概況と動向

2025年度入学者および全校生徒総数は以下の通り。(5月1日比較)

2024年度の比較では中学入学生がやや微減。高等学校入学生は増加となった。

① 中学校 1年生入学者数(前年度比) 173名(－5)

生徒総数(前年度比) 514名(+6)

② 高等学校 1年生入学者数(前年度比) 286名(+43)

内訳：内部進学159名(+22)、専願106名(+29)、併願21名(－7)

生徒総数(前年度比) 778名(－15)

③ 中学校・高等学校 全校生徒総数 1,292名(－7) 留学生除く

2022年度以降、従来の「大人数一斉型」の広報だけでなく、「少人数・個別最適化」のエリア説明会、サロン形式の説明会、個別のキャンパスツアーなども継続した結果、2024年度もアクセス数は増加した。中高合計の志願者・入学者は過去3ヶ年でほぼ平衡状態。

関西圏の中学入試志願率は引き続き増加傾向、高校入試の志願者は専願の増加に加え、併願戻り率が急増(29.6%)。

今後も本校の教育の本質を貫き、他校との差別化、在学時・卒業後の満足度の向上を継続する。ゆえに本校のミッションステートメントを土台にし、時代や社会に即した内容の刷新は必須である。

中学校入試の他校比較では、本校の志願者数は決して多くないが合格者に対する入学率は高い。以前からの傾向として一定の「コアファン」の存在がある。この**コアファン層を20%増加、入学率を70%に近づけることが当座の目標**である。

3. 【2024年度大阪女学院中学校・高等学校事業計画】

(1) イントロダクション

◆はじめに - 目的

2023年度は感染症対策も変わり、本校の活動も以前同様に戻った。いっぽうで前年度より生徒のコミュニケーションの問題、登校困難生徒の増加などの課題は継続中である。SNS等を介したコミュニケーションのみならず、対面の会話でもリテラシーの欠如による問題が顕在化している。改めて学校という「場」の力が試されている。と同時に、本校の使命である「**創造主による存在の確かさ**」を**宣べ伝える**ことで、自他の尊厳を重ん

じる基盤を据えることは揺るがない。

健全な自己認識の回復の兆候はある。例えば屋内競技場に移行した体育大会で、生徒会役員中心に一から計画を練り直し、各部門と調整を行い、生徒達が一丸となって成功させたことは、創造性・協働の実体験となったことは今後に生きてくるだろう。その他にも高校生の探求活動や、個人としてのプロジェクト、地域連携のイベントなど、**卒業後に「愛と奉仕」を実践する基礎力の育成**に一躍買っている。

いっぽう世界では紛争・戦争、エネルギーや食糧の供給問題など課題が増える。国内に目を向けても少子高齢化の加速が労働人口の減少を深刻化し、グローバル経済における競争力の低下、貿易収支の連続赤字など、構造的な大変化がすでに生じている。そうした荒海の中に生徒たちは出ていくわけである。彼女たちがあらゆる分野で将来” **Peace Maker**” となることを期待し、**霊的・精神的・身体的に健全でタフな生徒を育む**責任は重い。「新しい葡萄酒は新しい革袋」に注がねばならないのである。

そのために、生徒の学び・教職員の働きの主体性・創造性を助けるために、adaptive な（個別に最適化された）なプログラムの構築、資源の適正配分、DX化による「可処分時間」を増やす。「予測不可能」な時代であるからこそ、**「揺り動かされることのないもの」をどのように示し、育むのか**、大阪女学院の真価が問われる。

◆課題 - 未来への投資

- （１）日本の少子化への計画的対応 （就学人口 30%減に対応する新しいビジネスモデルの構築）
- （２）グローバリゼーションへの対応（世界規模での基準の統合・画一化への対応と独自性の発見）
- （３）ダイバーシティへの対応 （他種多様な属性、文化、価値観から成る社会で生きるために）
- （４）危機管理 （生徒の安全第一。災害その危機へに備え、平安に生きるために）

◆教育活動のマインドセット

- （１）全ての活動における ①方法 ②評価 ③振り返り ④改善
- （２）実践のための資源を測定し必要を満たす工夫
- （３）生徒とスタッフのマインドセットと本来の資質へ回帰（Revival）
 - ①生徒は、自主・自立・自律の姿勢を身につけ、学び成長することの喜びを経験すること
 - ②教員は、Teacher（教授者）から、Facilitator（促す人）、Coach（導く人）、Mentor（助言者）への回帰

(2) 事業項目

4 × 4 (16項目)・48要素

大きく4つの項目、それぞれ4つの要素に整理し、各要素の下に主な具体的事業を付記した。

教育事業の継続と発展は、基本的な資源が必要不可欠である。2034年までの人口推移予測をもとに試算した結果、**創造的で持続可能な教育および財政の健全化のために今後重点的に取り組むべき課題**を以下に記す。

項目	要素①	要素②	要素③	要素④
A 財政と 基本的な資源	1. 財政 (1) 健全な収支 (2) 修繕積立金 (3) 寄付、その他	2. インフラ (1) 建築物 (2) ICT インフラ (3) 生活インフラ	3. 安全保障 (1) 危機管理 (2) 災害対策 (3) 基金と奨学金	4. 遺産 (1) 建学の精神 (2) 文化と校風 (3) 資料と文化財
B 組織内要因-1 生徒支援	1. カリキュラム (1) 教科教育 (2) 行事 (3) 課外活動	2. 国際理解教育 (1) 言語教育 (2) 国際教育 (3) 海外進路	3. 人権教育 (1) 女子教育 (2) 人権学習 (3) 平和学習	4. 自立支援 (1) 支援教育 (2) 生活指導 (3) 進路指導
C 組織内要因-2 スタッフ支援	1. 労働環境 (1) 待遇 (2) 健康管理 (3) 福利厚生	2. キャリア支援 (1) キャリアプラン (2) 研修制度 (3) 資格取得支援	3. チーム形成 (1) 有機的なチーム (2) Servant Leader (3) 外部資源の活用	4. システム (1) 教育業務支援 (2) 経理業務支援 (3) 管理業務支援
D 組織外への働き	1. 広報 (1) 受験生向け (2) 塾向け (3) メディア向け	2. 保護者支援 (1) PTA 活動 (2) 就学支援 (3) 保護者支援	3. 同窓会 (1) ネットワーク (2) 共同事業 (3) 生徒支援	4. 社会貢献 (1) 地域貢献 (2) 施設支援 (3) 国際貢献

財政健全化のための3つの重点検討課題（ターゲット2034）

1）人件費収支バランス改善

- ①教員の健康維持管理
- ②基本授業時間数（ポストおよび減数、授業総時間数と外部委託）
- ③各年代のバランス（平均44歳、早期退職および再雇用制度、若年層採用）

2）採用・人事検討課題

- ①カリキュラム変更による各教科の必要人数
- ②新人育成と再教育・研修システム
- ③ポストの整理とワークシェア

3）生徒増加

- ①魅力ある学校生活
- ②卒業後の教育評価と広報
- ③コアファン80%＋非認知層20%へのアウトリーチ

（3）中学校・高等学校の教育目標とIB学習者像、学習指導要領 の関連

大阪女学院は、キリスト教に基づく教育をめざし、神を畏れ、 真理を追求し、愛と奉仕の精神で社会に貢献する人間を育成する。		
大阪女学院中・高教育目標	IB（国際バカロレア）学習者像	文科省学習指導要領

●すべての人間は神によって創られたかけがえない存在であると認識して、人権尊重の精神をもつ人間を育成する。 【愛】【親切】	●信念をもつ人 私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。 私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。	●正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うこと。
●自由で伸びのびした校風の中で、自立した人間を育成する。 【喜び】	●バランスのとれた人 私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。 また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。	●生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと
●激しく動揺し、価値観が変化する現代社会の中で、どのような困難にも打ち克って明るく前向きに生きる人間を育成する。 【平安】【自制】	●心を開く人 私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見いだし、その経験を糧に成長しようと努めます。 ●挑戦する人 私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。	●幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと ●個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

●正しい知識を身につけさせ、日常生活の雑事をこえて物事の本質を見極め、国際的視野で物事を見る力を持たせる。 【善意】	●探究する人 私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。 ●知識のある人 私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。	
大阪女学院中・高教育方針	I B（国際バカロレア）学習者像	文科省学習指導要領
●確かな学力を身につけさせ、生涯にわたって学習を続けていく基礎を確立させる。 【誠実】	●考える人 私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。 ●振り返りができる人 私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。	●伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。
●豊かな情操、高い知性、思いやりの心をもって自分を生かし、他の人を生かす人を育成する。 【寛容】【柔和】	●コミュニケーションができる人 私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。 ●思いやりのある人 私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神	

	を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。	
--	---	--

※表は大阪女学院中学校・高等学校の教育目標と、I B（国際バカロレア）および文部科学省の学習指導要領とを比較し関連付けたものである。なお【 】のキーワードは聖書（ガラテヤ 5:22-23）より引用した。

本校の教育目標に対して I B のそれは親和性があるゆえに導入した経緯がある。

「国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。」（IB の教育理念）

新しくなった文部科学省の学習指導要領は、ずいぶん本校のものと近くなった。

「予測困難な社会の変化の中で豊かに生きるためには、変化に対して受け身で対処せず、むしろ目指すべき社会像を議論し、共有し、実現していくことが重要となる。一人一人が他者との関わりの中で『幸せ』や『豊かさ』を追求できる社会であるべきであろう。Society 5.0 において人間らしく豊かに生きていくために必要な力は、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力が必要であると整理した。」（文科省・学習指導要領改訂のポイント 抜粋）

第一に、全ての活動における（１）方法 （２）評価 （３）振り返り （４）改善 が重要である。

第二に、実践のための資源を測定し必要を満たす工夫が求められる。

第三に、践に生徒とスタッフのマインドセットと本来の資質へ回帰（Revival）することである。すなわち、

- ・生徒は、自主・自立・自律の姿勢を身につけ、学び成長することの喜びを経験すること。
- ・教員は、Teacher（教授者）だけから、Facilitator（促す人）、Coach（導く人）、Mentor（助言者）への回帰。

(4) 2024年度事業計画

(2) 事業項目 の分類に基づいて、各項目・要素ごとの重点課題を挙げる。定常的なものはここでは扱わず、短・中期的視点で資源を投資する事業にしぼり、達成時期を定め、今後の評価と改善サイクル（PDCA）を明確にする。

計画（単年度、中期の計画策定・修正）、実施、確認（中間決算・修正予算期、期日の変更・修正）、評価（学内、理事会、学校関係評価によるアセスメント）

A 財政と基本的な資源

- ①DX 化推進による業務軽減と支出削減。
- ②独自ファンドの拡充（寄附拡充、ふるさと納税制度の活用）
- ③建築物活用の中長期計画（有形登録文化財の活用、リノベーション）

A-1.財政 (1)健全な収支 (2)修繕積立金 (3)寄付、その他

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・専任数と人件費の適正化 ・経理システム導入と人件費削減 ・独自ファンドの拡充 ・新規収益事業の検討・計画	常勤講師の新規職分策定 出張・休日出勤精算システム導入 寄付拡充、ふるさと棒税制度活用 西館跡地の有効利用	継続実施、2023 再評価・策定 2022-順次実施、2024 学院 DX 化 2022 実施、2024 組織改革 2021-計画、2024 策定・実施

A-2.インフラ (1)建築物 (2)ICT インフラ (3)生活インフラ

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・建築物評価と答申 ・情報セキュリティの強化 ・衛生管理施設の更新 ・空調設備の更新	耐用年数設定と新規建築計画 学内サーバ運用、端末の一元管理 トイレ等の更新 メンテナンス、コスト、環境	2023 再計画、2024-組織改編 2019-実施、2026 完成 2022-順次実施、2024 第 2 期 工事 2022 完成、2023-管理

A-3.安全保障 (1)危機管理 (2)災害対策 (3)基金と奨学金

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・危機管理対応スキームの更新 ・南海トラフ等、災害時の運営	ハンドブック作成と認知徹底 全員対象の対応スキル訓練と習得 PTA 会計からの継続的積み	2022-実施、2023 点検・修正 2022-実施、2024 備蓄継続 2020-実施

・学内ファンドの増資と運用	立て	
---------------	----	--

A-4.遺産 (1)建学の精神 (2)文化と校風 (3)資料と文化財

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・建学の精神・歴史の浸透 ・資料の整理・保存・公開 ・登録有形文化財の活用	礼拝、教科（聖書）等で実施 強化 収蔵場所構築と将来構想 チャペルの運用。北校舎の検討	2022-継続実施 2022-計画、 2025 完成予定 2022-計画、 2025-順次実施予定

B 組織内要因-1 生徒支援

①「真に自立・自律した女性」の素地をつくるトレーニング（自学自習、学級・行事、探究活動、地域連携）

②キャリアの多様化に応じたアダプティブ（個別適応）な学習とキャリア支援。

③2025年度新カリキュラムとシラバスの構築・公表。

B-1.カリキュラム (1)教科教育 (2)行事 (3)課外活動

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
- 基礎力及び個別支援の構築 - 主体的な学習の推進 - 自主学習支援の強化 - SDGsの研究・発表（文化祭等） - ラーニングコモンズの活用 - 情報収集スキルの向上	土曜日を含む枠組みの再構築 高校の科目設定、各進路への特化 放課後の学外メンター導入 中高全体の取り組みの構築 教科との連携 中学総合学習のシラバス変更など	2023-答申・計画、 2025 実施 2023-答申・計画、 2025 実施 2021-実施、 2024 運用強化 2021-実施 2022-実施、 2024 一部拡張 2023-再評価・計画

B-2.国際理解教育 (1)言語教育 (2)国際教育 (3)海外進路

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
- 高度な語学運用能力の涵養 - 国際的視野と思考・表現力の強化 - 海外進路選択の拡充 - 情報収集サービス・資料の拡充	英検準1級、IELTS、SAT 講座 エンパワーメントプログラム強化 提携校の開拓、個別指導の支援 リファレンスサービスとの連携	継続実施、対象の拡大 2022-実施、 2024 評価 2019-実施、 2024 協定・連携拡充 2022-実施

B-3.人権教育 (1)女子教育 (2)人権学習 (3)平和学習

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
- 多様化する性への配慮と対応 - ダイバーシティへの対応 - 平和学習フィールドワーク	解放（人権）教育プログラム 多言語インフォメーションの構築 修学旅行行程との連携見直し	2021-実施 2024-調査・計画 2024-再評価・計画

B-4.自立支援 (1)支援教育 (2)生活指導 (3)進路指導

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・対象の早期発見・支援 ・生活及び通学マナーの向上 ・多様な進路への対応 ・総合選抜型入試等への対応 ・学力層全体の上昇スライド	情報共有の徹底とチーム対応強化 挨拶および通学指導 協定校、指定校以外の進路開拓 小論文、自己推薦書等の系統的指導 学内支援、外部サービスの利用	2022-実施、2023-強化 2023-調査・強化 2022-実施 2022-実施、2025 強化 2023-実施、2024 再評価・強化

C 組織内要因-2 スタッフ支援

- ①スタッフの心身の健康増進および危機管理。
- ②有機的なチーム形成のためのキャリアとコミュニケーション支援。
- ③「働きかた改革」による勤務形態の更新と業務支援・軽減システムの構築。

C-1.労働環境 (1)待遇 (2)健康管理 (3)福利厚生

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・休暇の確実な取得 ・メンタルヘルスの向上 ・クラブ顧問・支援員外部委託 ・課外プログラムの再構築 ・会議等の再構築	休日出勤の軽減、方法変更 早期支援と合理的配慮 コストおよび保護者の理解 必要の精査と労働軽減 必要の精査と労働軽減	2022-実施、 2025 再構築完成 2022 実施 2022-実施、 2025 土曜・検討実施 2024-検討、順次改定 2022-順次改定

C-2.キャリア支援 (1)キャリアプラン (2)研修制度 (3)資格取得支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・キャリアプラン支援の推進 ・学内研修のテーマと方法変更 ・心理学的アプローチの向上 ・キリスト教教育の研修の拡充	ヒアリングと適正配置 セッション中心の能動的 内容 面談等のスキルアップ研修 キリスト教学校教育同盟との連携	2020-実施 2021-実施 2023-計画・実施 2022-実施

C-3.チーム形成 (1)有機的なチーム (2)Servant Leader (3)外部資源の活用

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・ガバナンスの確認 ・専任業務範囲の適正化 ・教員のフェローシップ拡充 ・メンター制度の検討	ワークフロー、法令順守の 確認 アウトソーシングと財源確保 「場」の共有とレクリエーシ ョン 新任教員の組織的フォロー	2024-再確認と徹底 2020-実施、 2023-検討・実施 2023-検討・実施

C-4. システム (1)教育業務支援 (2)経理業務支援 (3)管理業務支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・教務システム変更 ・精算業務の効率化と人件費	成績処理および評価入力の変 更	2022-実施 2022-実施、 2024-学院 DX 化

削除 ・ICT 活用による収集業務変更 ・データベースの一元管理	経理生産システムの導入 リサーチ等のオンライン化推進 生徒 ID の学内統一、出退勤管理等	2020・実施 2022・実施
--	---	--------------------

D 組織外への働き

①広報活動のエリア拡大およびコンテンツの充実。2026年までに2020年の就学人口比+20%。

②①と連動した、同窓生および保護者との連携による教育活動の拡充。

②社会、とりわけ地域貢献の新規事業開発。

D-1.広報 (1)受験生向け (2)塾向け (3)メディア向け

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・新規エリア開拓 ・新しい地域密着型広報 ・オープンキャンパスの変更 検討 ・主体的な教育実践のPR ・国際的な教育と海外進路のPR ・入試方式の検討	北摂・阪神間へのアプローチ 説明会からフォーラム形式に イベント型から日常開放型へ 生徒による実践例の紹介 生徒・OGによる実践例の紹介 教育方針に合った独自入試の 検討	2022-実施、2024 拡張 2022-実施、2024 拡張 2022-実施、2024 拡張 2022-実施、 2022-実施、2024 拡張 2021-検討、2026 以降改訂

D-2.保護者支援 (1)PTA 活動 (2)就学支援 (3)保護者支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・へール会活動の再開と拡充 ・学内ファンドの告知方法検討 ・社会資源のリサーチと紹介	権限委譲と拡充・協働の強化 申請の心理的ハードルを下げる 社会資源・制度の認知を拡大	2022-実施、2024-検討・改訂 2022-実施 2022-実施、2024 計画改定

D-3.同窓会 (1)ネットワーク (2)共同事業 (3)生徒支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・同窓会との連携と生徒支援拡充 ・新規ノベルティの企画・開発 ・中高ホームカミングデーの検討	ロールモデルとしてのOG紹介 母校とのRelationship強化 母校とのRelationship強化と 広報	2022-実施・拡張 2021-実施、2024 組織再構築 化検討 2023-検討

D-4.社会貢献 (1)地域貢献 (2)施設支援 (3)国際貢献

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・地域貢献活動の新設・拡充	地域への奉仕活動やイベント	2022-実施

・施設訪問や支援の再開・拡充 ・国際貢献活動の整理と位置づけ	公開 施設訪問と支援の動機づけ向上 総合・探求学習との連携	2023 再開- 2021-実施
-----------------------------------	-------------------------------------	---------------------

4. 【2024年度事業評価・課題と改善点】

(1) 内部評価の調査方法・調査対象、評価方法

- ・Web アンケート（Google フォーム）による無記名回答
 - 中学校・高等学校生徒 2024 年 12 月実施（対象 1287 名、1,102 名回答）
 - 在校生保護者 2024 年 12 月実施対象 1287 名、467 名回答）
- ・事業画振り返り
 - 専任教職員 2025 年 1-3 月運営委員会議およびアンケート

(2) 各事業項目の分析・改善点

各項目・要素別の評価を分析し、改善点を提言する。

A 財政と基本的な資源

主な Positive ポイント：①施設（中高生、保護者） ②ICT 支援 ③衛生・保健
③建学の精神と礼拝による涵養（全対象）

主な Negative ポイント：①空調（高校生）

改善点：①教育活動充実のための施設拡充、中学校のトイレ改修（南校舎）、高校東校舎空調の改善（室内温度のムラ）

②建学の精神とキリスト教教育の重要性は全校的に評価されており、引き続き現代の文脈の中で具体的な行動や生き方に結び付く遺産（legacy）継承に努める。

*前年度の Negative な評価が解消されたもの：①高校校舎のトイレ

B 組織内要因-1 生徒支援

主な Positive ポイント：①行事（中高生） ②探究活動の ICT 利用（中高生） ③図書館利用（中学生）

④言語教育（全対象） ⑤国際理解教育（全対象）

⑥人権教育全般（全対象） ⑦生活指導（中高生、保護者）

⑧進路指導（中学生、保護者）

⑨海外進路サポート（中学生） ⑩コミュニケーション（中高生）

主な Negative ポイント：①図書館利用（高校生） 海外進路サポート（高校生、保護者）

改善点：①行事への関心・満足度は依然高い。今後も生徒主体の活動がいかに発展するか、教員のファシリテーターとしてのスキルが求められる。

②図書館利用は中学生のポイントが高く授業内でのラーニングコモンの利用や課題が要因であろう。高校生は一部のクラス（IB など）をのぞき利用率が低く、情報収集や探求のツールとしてネットアクセスの割合が多いと推測される。また今後は Ai の利用における学問的誠実性（Academic Honesty）の遵守が課題である。

*前年度の Negative な評価が解消されたもの：①語学教育 ②学習支援

C 組織内要因-2 スタッフ支援

主な Positive ポイント：①クラブ活動（中高生） ②チームによる生徒・保護者支援（中高生、保護者）

改善点：①2025年度より教員週5日勤務に伴い、速やかな情報共有・決定・支援を期待する。

D 組織外への働き

主な Positive ポイント：①入試情報提供 ②PTA 活動 ③奨学金支援 ③制服・ノベルティ ④地域社会貢献活動

(いずれも保護者)

改善点：①入試広報による受験生のマッチングを今後も進める。独自の奨学金基金など評価されている。

②今後、地域連携・貢献など今後も保護者と連携・協働する分野の拡充は本学の本質に関わる事業である。

E 総評

主な Positive ポイント：中高生・保護者の評価はいずれも 90 数%を超える。

改善点：①私立学校において帰属意識・母校への誇りを生徒・保護者が持てることは重要課題である。在籍生徒に占めるリピーター（姉妹、卒業生の子弟）の割合も多い。今後も学校のブランディングを進める。それは本校の普遍的な価値観、未来志向の施策の開発による、コアファン層の増加と連動する。